

いどいど

 仁淀川町
広報

3 2007年
月号 No.20



早春の風を切って走る元気な園児（2月16日・名野川保育所マラソン大会）

快

笑

走

顔

主な 内容

- 2～5.....秋葉まつり
- 6.....消防団出初め式
- 9.....長者小で指定研究発表会
- 12.....平成19年度総合健診のお知らせ
- 14・15.....町人事行政の運営等の状況

山里に脈々と受け継がれる伝統

秋葉まつり



早春の別枝を彩るまつり

土佐の三大祭りの一つ、秋葉神社大祭が二月十一日に行われました。晴天に恵まれた三連休の中日ということもあり、県内外から大勢の観客が訪れ、勇壮なまつりに酔いしれていました。

「秋葉さんが終わるまでは、仕事も手につかん。これが終わったら畑仕事も始まるし、普段の生活に戻るねえ」と地元の方が話すように、新年を迎えると、ならし（練習）や準備が本格的に始まり、いつもは静かな山里はまつり一色で、一年中で一番活気づく時期となります。

二百年以上続く伝統の行事は、地区の人たちの絆を深める大事な行事ともなっています。

由来

秋葉神社のある別枝には、壇ノ浦の戦いに敗れた平家一族が、安徳天皇を警護してこの地に潜幸されたという伝承が残されています。

社伝によると、その一行に従ってきた常陸国筑波城主佐藤清岩が、遠州（今の静岡県西部）秋葉山から秋葉神社を勧請してこの地（岩屋）に祭祀したのが始まりといわれています。



鼻 高
まつりの総指揮役

練りの役者たち



悪 魔

各組の行列の前後に立ち、人払いをすることも。また風向き、鳥毛役の力量などを考慮し、鳥毛を受ける側の位置を決めるという重要な役割もしている



太鼓かき

大太鼓を打ち鳴らしながら行列に従う



油売り

まつりの人気者。「商人」「あきんど」とも呼ばれ、ひょうきんなしぐさで観客を楽しませる



鳥毛役

まつりの花形。火事装束で長さ約6.5mの鳥毛を投げ合う。大役を終えぼっと一息…の2人

ご祭神はその後、法泉寺、市川家で祭られ、寛政六（一七九四）年、郷民の要望で氏神として現在の地に移されました。そのときの約束で、年に一度縁の地に御神幸することになりました。これが秋葉まつりです。秋葉神社のご祭神は、火を司る火産靈命（火之迦具土大神）で、火防や災難よけのご信仰があります。

まつりは三日間

秋葉まつりは二月九日から三日間にわたります。初日、秋葉神社でご神体はみこしに移され、岩屋神社へ移動し一泊します。二日目は市川家で一泊。三日目の朝、岩屋神社を出発したみこしは、市川家へご神体を迎えに行き、一日がかりで秋葉神社へ還御されます。この行事が、まつりのフィナーレを飾る「練り」です。

練り

練りの行列は、先払いの鼻高を先頭に、みこしを中心とする神幸行列、それに従う本村、霧ノ窪、沢渡の三つの奉納組が続ぎ、総勢三百人ほどになります。

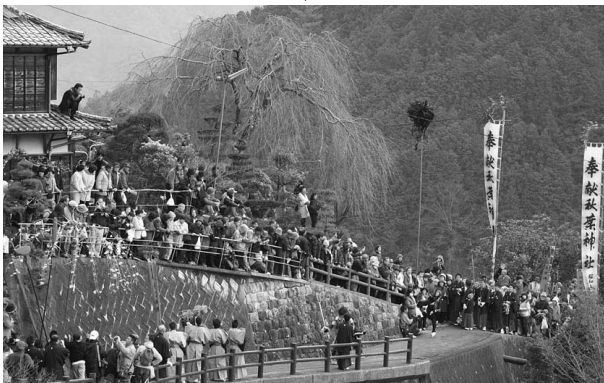
岩屋神社から秋葉神社までの道のり



岩屋神社



市川家



大石家前



秋葉神社



中越家前



法泉寺



縁の地

岩屋神社

まつり（練り）の出发点。神社にある岩穴に遠州から最初に祭神が祭られました。

市川家

市川家が代々番所役を務めた別枝口番所は、土佐と伊予とを結ぶ要所で、土佐三大番所の一つに数えられていました。

しだれ桜でも有名です。

法泉寺

元は佐川の青源寺の末寺で、瑞王山法泉寺が四百年以上前からありました。しかし明治維新の廃仏毀釈で廃寺となり、そこに一時別枝郷の役場が置かれたことがありました。

中越家

中越家は享保十六（一七三二）年、別枝村の庄屋となり、明治三年に庄屋制度が廃止されるまで、代々庄屋職を務めてきました。

本番まで…

秋葉まつりのような大きな祭礼行事には、さまざまな準備が必要です。本番までの様子を一部ご紹介します。

「切り飾り（はりもの）」

まつり本番前の日曜日に、太鼓やかねなどの鳴り物、鳥毛、踊り棒などの飾り付けをする作業が「切り飾り」で、組の人総出で行います。霧ノ窪組では「はりもの」といいます。近年は、町外からボランティアで参加してくださる方も多く、各組とも人手不足の折から大変喜ばれています。

霧ノ窪組



年が明けると、普段は高齢者の多い静かな山里に祭り囃子が響き、踊り子のお囃子がこだまします。「ならし」は太刀踊りや鳥毛の練習のことで「熟れ（熟練）」「慣れ」からきた言葉といわれています。

沢渡組



「ご神体は秋葉神社から岩屋神社へ」

2月9日、秋葉神社で神主の手によってご神体はみこしに移され、練りが通る道をたどり岩屋神社に着きます。

秋葉神社を出発



山道を通って岩屋神社へ



「出たて」

十一日、まつりの朝は早く、各組とも六時ごろには、それぞれの組の集会所に集合します。衣装を着け、化粧をすころ、辺りが明るくなっています。眠そうな子どもたちも、まつり支度が整うと表情が引き締まってきます。八時ごろ、出発に先立ち、それぞれの地元で、鳥毛ひねりや太刀踊りなどが披露されます。これを「出たて」といいます。



沢渡組の出たて

